

2 地域の概要

- 本校は大島の西岸、三原山のゆるやかな裾野の北西部に位置し、大島の玄関口で行政・経済・交通の中心地である元町、大島節の発祥の地といわれ、風光明媚な野増の2地区を学区とする。

豊かな自然と厳しい自然環境を兼ね備えた物理的条件はあるが、時代の推移とともにへき地の特性(文化的停滞、教育力の低調、閉鎖性等)が都市化・情報化の影響を受けて、生活面・意識面に変容がみられる。しかし、昔ながらの相互扶助の精神が減少しているとはいえ、今なお残っており、特に学校教育に対する期待は大きい。従って地域や家庭は学校への理解と協力の姿勢を惜しまない特性がある。

社会教育面でも学校施設の活用が盛んになり、特に体力向上が図られている。文化活動面にも充実を図るべき努力がなされている。

3 本校の教育目標

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

大島を愛し、人権尊重の精神を基盤に社会で自立する人間をめざして、次の教育目標を設定する。

○自ら進んで学び

自然や人を愛し

たくましく生きる生徒

本校では「一中魂」を合い言葉として、「自学」「敬愛」「誠実」の心を育む。

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

① 基本的生活習慣の確立・定着

- ・ 道徳教育、オリンピック・パラリンピック教育を充実させ、豊かな心を育てるとともに、健康な心と体と養うため規律ある生活を送らせる。
- ・ 体育的活動とともに文化的活動、読書活動・食育活動を充実させ、心身の豊かな健康を育む。

② 共感的人間関係の育成

- ・ 計画的ないじめの未然防止対策により学校生活の安全性を高めるとともに不登校対策（PDCAを取り入れ）に対応していく。
- ・ 教育活動全体を通じて人権教育を推進し、生命尊重および自主自立の精神を重視させ、自他の人の大切さを認める精神を養う。
- ・ 生徒理解に努め、教師による体罰・暴言をいっさい許さず、生徒との間に信頼と敬愛の絆を確立する。
- ・ 特別支援教育の研修を積極的に進め、生徒個人個人に対応できるような指導実践を図る。
- ・ 校内の教育相談機能を高め、互いに安心・信頼して生活できる環境を整える。

③ 確かな学力の形成

- ・ すべての学習で目標を明確に示し、生徒に見通しをもたせ、目標の達成状況を振り返らせることで、学習の到達度を理解させることと次時への課題を持たせる。
- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するのに必要な思考力・判断力・表現力を育むとともに、自らすすんで学習に取り組む態度を養う。
- ・ 小・中・高連携を充実させ、生徒の健全育成と学力向上を目指す。
- ・ 生徒の基礎学力定着と学力向上を目指すための放課後学習の工夫と家庭学習の習慣化を図る。
- ・ 習熟度別少人数指導を行い、確かな学力の定着を図る。

④豊かな社会性の育成

- ・計画的なキャリア教育を推進し、自己の生き方・他者との関わり方について考えさせ、自身の将来について、または地域に貢献することについて考える力を育む。
- ・ボランティア活動さらに推奨し、地域社会・国際社会の一員としての資質・能力を向上させる。
- ・自然 文化、伝統についての学習を深め日本そしてジオパーク大島への郷土愛を育む。
- ・様々な状況を想定した安全指導を行い、生徒の災害時の対応能力を高める。

⑤学校評価の観点

- ・速やかに教育活動の改善と充実に資するため、3つの側面（学校経営方針に基づく学校の自己評価・各学期末に実施する学期ごとの教員評価・主な学校行事の評価）から学校評価を実施する。

4 指導の重点

(1) 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間

ア 各教科

- ① 教育目標の具現化にむけて、全教職員が各教科の実践を結び付けながら目指す生徒像に向かっての取り組みを推進する。(カリキュラム・マネジメントの実現)
- ② 学習のねらいを明確に示し、振り返りの時間にねらいの達成を確認することで学習の定着度をはかり、指導と評価の一体化を推進する。
- ③ 各教科で次期学習指導要領を見据えた主体性を育てる学びを積極的に取り入れ主体的な学び、対話的な学び、深い学びを実現する授業実践を行う。
- ④ 各教科において言語能力向上を重視し、国・都の学力調査及び大島町共通学力テストの結果分析を通して授業改善を図る。確かな学力の向上を目指し、知識・技能の習得と活用を重視し、併せて思考力・判断力・表現力の育成を推進する。
- ⑤ 校内研修のテーマを「生徒による主体的・対話的で深い学びの実現」として個々に応じた指導実践を中心に各教科で工夫して行う。
- ⑥ 英語教育ではTOEICを全員に受検させ「Welcome to Tokyo」の活用を通してコミュニケーション能力を高める。
- ⑦ 数学、英語教育において習熟度別少人数指導を実施し基礎基本の確実な定着を目指す。
- ⑧ 情報活用能力を高めながら、すべての学習活動の中で情報モラルを身に付けさせる。

イ 道徳

- ① 「特別の教科 道徳」の一部先行実施を行い、「東京都道徳教育教材集移行措置対応版」を実際に活用し道徳の授業の実践と研究・改善を進める。
- ② 豊かな体験的活動を通して、重点目標である「思いやり」と「向上心」の心を育てる。
- ③ 年間指導計画に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳の内容項目について意図的・計画的に指導する。
- ④ 道徳授業地区公開講座に保護者・地域の方の参加を促し、地域とともに協力し、道徳的实践力を育てる。

ウ 特別活動

- ① 学校全体の特別活動の目標を「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」として、学校行事との関連を図りながらガイダンス機能を充実させるとともに、集団や社会の中においてより良い人間関係を構築できるように指導する。
- ② 全ての活動をPDCAサイクルに基づいて指導し、協働的な振り返りや改善のもとに自己を向上させる力を養う。

- ③ 学校及び町の体育的・文化的行事に全校体制で臨むとともに、全教員が指導に取り組むことにより健やかな心身の育成を図る。
- ④ 生徒会活動を中心として校内外のボランティア活動を充実させ、奉仕の精神や社会参画への気持ちを育成する。

エ 総合的な学習の時間

- ① オリンピック、パラリンピック教育と関連させながら伝統や文化、郷土、人々の生活に関して、生徒の興味・関心を重視し、体験的な学習及び課題解決学習を展開させる。
- ② 生徒の発達段階に応じた体験的・計画的な進路学習を重視し、将来に向けての課題解決学習となるように指導する。
- ③ 年間計画に基づいた健康・食に関する教育を推進し、心身の健全育成を図る。

(2) 特色ある教育活動

- ① 朝読書、句会ライブ、弁論大会を通して、感性、表現力、創造力を豊かなものにする。
- ② 日本ジオパーク認定の意義を理解させ、自らが育つ大島に対する郷土愛を育むとともに、環境教育の充実を図る。
- ③ 小学校や高等学校と学びについてのつながりを工夫しながら連携した実践を行う。
- ④ 部活動に全職員で取組み、体罰の根絶に努め、心身ともに健全な生徒の育成を図る。
- ⑤ 「先生あのねの会」を実施し、生徒が教員に対し相談しやすい体制を作る。
- ⑥ 家庭学習の定着を図るとともに、放課後学習室を活用して生徒の学習を支援する。

(3) 生活指導・進路指導等

ア 生活指導等

- ① 人との関わりの中で自らの生命、他者の生命の大切さを確認させるとともに、自主的、自律的活動の中で、自らの役割を遂行することにより自己肯定感を味わわせる。
- ② 校内外での規律ある生活を身につけさせる。
- ③ セーフティ教室を実施し、情報モラル・安全・薬物乱用防止等、心身の健康安全に関する指導の充実を図る。
- ④ ふれあい月間の取組や学校いじめ対策委員会を通して、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努め「いじめ防止基本方針」に基づいていじめの解決に向けて徹底した指導を行う。重大事態への対処は初動対応を重視し保護者、地域と連携を図る。
- ⑤ 学校、家庭・地域が生徒指導上の共通理解を図り、その役割を果たし連携に努める。
- ⑥ 組織的・計画的に個人面談、「先生あのねの会」などを実施し、生徒個々の困難・ストレスを把握できるようにする。また、日常的に生徒情報を共有し、SCと連携を取りながら問題の未然防止に努め、問題に対して全校体制で当たる。
- ⑦ 保護者・地域・SC・SSW等の関係諸機関と連携、協力できる学校サポートチームを活用し不登校や問題行動等への対応を図る。
- ⑧ 特別支援校内委員会を中心として通常の学級における特別な支援を必要とする生徒についての情報の共有と合理的配慮の実践を全校体制で行う。
- ⑨ 様々な場面を想定した防災訓練を行う。特に町の防災計画に従った防災教育への取組を強化するとともに生徒の安全確保について指導を徹底し生徒の意識向上を図る。

イ 進路指導等

- ① 各学年 系統的、計画的に実践データを引き継ぎ、指導体制を充実させる。個人面談等を通して、日々の生活を見つめさせ、自己の生き方、他との関わり方を深く考える態度と将来に

向けた目標を達成させる意欲を培う。

- ② キャリア教育の視点に立った「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成を目指し、自己理解・身近な人の職業調べ・職場訪問・職業体験学習等の三年間を見通した体験的活動を重視する。また、望ましい職業観・勤労観を培い、主体的に進路選択ができる態度・能力を養い、社会的・職業的に自立するために必要な能力を育成する。
- ③ 大島の将来を担う人作りを考えながら、地域人材を活用した進路講演会を開催し、進路に対する視野を広げる。

5 生活時程表

	校時	月	火	水	木	金		
8:00 ~ 8:10		職員朝会						
8:10 ~ 8:20		朝 読 書						
8:20 ~ 8:25		朝 学 活						
8:30 ~ 9:20	1	○	○	○	○	○		
9:30 ~ 10:20	2	○	○	○	○	○		
10:30 ~ 11:20	3	○	○	○	○	○		
11:30 ~ 12:20	4	○	○	○	○	○		
12:20 ~ 12:45		給 食						
12:45 ~ 13:15		昼 休 み						
13:15 ~ 14:05	5	○	○	○	○	○		
14:15 ~ 15:05	6	○	○		○	○	5校時までの場合	
15:05 ~ 15:20		清 掃					14:05 ~ 14:20	
15:20 ~ 15:30		学 活					14:20 ~ 14:40	

・下校時刻（委員会、係、部活動参加生徒）

3月～運動会終了	運動会終了～2月末日
17:45	17:15

6 学校規模

(1) 学級数・児童数 (平成30年4月1日現在)

学級別	1年	2年	3年	くろしお学級 (特別支援学級)		合計	
				肢体	知的		
学級数	1	1	1	0	0	3	
児童数	男子	9	12	10	0	0	31
	女子	7	9	10	0	0	26
	計	16	21	20	0	0	57

(2) 卒業生進路状況 (平成30年3月31日現在)

進路先	大島高校			大島海洋 国際高校	都 内		都 外		就職	合計
	普通科	併合科	定時制		公立高校	私立高校	公立高校	私立高校		
男子	3	2	0	0	1	1	0	1	0	8
女子	5	3	0	0	5	0	0	2	0	15
計	8	5	0	0	6	1	0	3	0	23

(3) 教職員数

	校長	副校長	主幹教諭	主任教諭	教諭	主任養護教諭	非常勤	講師	産休代替	事務主任	合計
男	1		1	1	4		2	0			9
女		1			6	1		1		1	10
計	1	1	1	1	10	1	2	1	0	1	19